瑞穂区在住の160名の読者が紙面づくりのためのアンケートに回答

名古屋市瑞穂区企画
区長とタレントの対談＋区民の生の声

リニア開通を控え、都心物件のマンションが好調の名古屋地区。そんな中、野村不動産が瑞穂区に「プラウド瑞穂陽明」を建設。55戸と中規模ながら、足元だけでなく幅広く名古屋市内にPRしたいとの戦略が広告主側にあった。

出稿の獲得に向けて、広告会社との話し合いで（最終的に）構想したのが、自治体と連携した紙面作り。結果、瑞穂区長のインタビューがブッキングでき、主側も「物件の信頼性がより高まりそうだ」と出稿を承諾。なお、ローカル色を高めるため、聞き手には地元タレントの矢野きよ美氏を起用した。

2018年3月10日付 中日新聞朝刊 市民版

さらに中日新聞の読者向け会員サイト「中日プラス」を通じて瑞穂区に関するアンケートを実施。瑞穂区民の会員にはアンケート協力依頼のメールを直接送信し、同区民160名から回答を得ている。その一部を“瑞穂区の住みやすいところ”として紙面上で紹介した。

自治体と連携し、ローカル色の濃い情報や人を紙面でマッチングすることで、新聞の媒体力を引き出せた今回の事例を、次の提案にまた生かしていきたい。

名古屋本社　広告三部
緒方 直晃

瑞穂区に住む160人の読者がアンケートに回答！読者の声を紙面に反映しました。（一部）

買い物に不自由せず、近隣との付き合いもほどほどにあり、保育園や幼稚園にも不便しない。また、公園もあり、子育て世代にも年配世代にも住みやすい町。（41歳・会社員）

緑が多く、救急やクリニックなどの医療機関が多い。（49歳・会社員）

交通が便利で、教育・文化施設が多数あり、スポーツ施設も充実している。住民の気持ちも優しい。（51歳・会社員）